

いばらき能

— NOH@IBARAKI —

仕舞 笹之段

山本章弘

狂言 茶壺

善竹隆司



# 能 安達原

山本章弘



20<sup>th</sup>  
since 1996

平成 29 年 3 月 12 日 (日) 午後 2 時開演 / 茨木クリエイティブセンター・センターホール

◆主催 公益財団法人茨木市文化振興財団 ◆制作 公益財団法人山本能楽堂 / 三栄企画 ◆後援 茨木商工会議所 / 茨木市観光協会

ADACHI no HARA





# 番組

## ◆狂言・能の解説

### ◆仕舞 笹之段

地謡

山本章弘  
赤瀬雅則  
梅若基徳  
井戸良祐  
山本麗晃

吉野の男が奈良西大寺で幼子を拾ったので、京都清涼寺の大念仏に連れて行く。そこでは百万が現れ、さまざまに面白く狂って見せる。百万は我が子が失った悲しみを語り舞うが、実はその子こそ吉野の男が拾った幼子であった。やがて二人は互いに親子と分かり、めでたく再会するのであった。

仕舞とは、一曲の能の中で、最も盛り上がる、見せ場となる部分を取り出し、紋付、袴姿で演じられ、能のデッサン、などとも言われています。「笹之段」は、母である百万が、笹を持ち舞う場面です。

## ◆お囃子解説

### ◆狂言 茶壺

シテ(素っ破)  
アド(中国の者)  
アド(目代)  
後見

善竹隆司  
善竹隆平  
上西良介  
上吉川 徹

茶好きの主人の命により梅ノ尾へ買い付けに出掛けた男は、帰路立ち寄った宿場でお酒に酔い潰れてしまいます。茶壺を背負ったまま道端で寝込んでしまうと、そこへ通りかかった徒者(素っ破)が、これ幸いと近づき肩紐に手をかけ、目覚めた男に自分の物だと主張し言い争いになります。目代が駆けつけ、二人の仲裁に入りますが…。

詐欺師が近付き所有権を言い争う演目は、狂言「長光」にも見られますが、本曲は所有者ならではの知り得ない情報を、止めに入った代官(目代)の前で身振り手振りの仕方話で説明する男と、それを盗み見て真似る素っ破の駆け引きが見どころとなっています。さて目代の裁きはどうかということやら…。

### ◆能 安達原

シテ(女・鬼女)  
ワキ(山伏祐慶)  
ワキツレ(山伏伏)  
アイ(能力)  
笛  
小鼓  
大鼓  
太鼓  
後見  
地謡

山本章弘  
福王知登  
喜多雅人  
善竹隆平  
斉藤 敦  
古田知英  
守家由訓  
中田弘美  
赤瀬雅則  
梅若基徳  
吉井基晴  
井戸良祐  
林本 大  
今村哲朗

阿闍梨祐慶は、同行の山伏らと共に修行の旅を続けていました。陸奥に辿り着いた一行は、人里離れた安達原(現在の福島県安達太良山麓)で夕暮れを迎えてしまいます。安達原に一軒だけ見つかった年齢を重ねた女の一人住まいに、祐慶たちは一晩泊めてくれるよう頼みます。

家の中で祐慶は見慣れない道具を見つけ、女に尋ねます。すると、これは杵杵輪(わくかせわ)という道具で、自分のような賤しい身分の者が糸繰りに扱うと女は答え、また辛い浮き世の業から離れられない我が身を嘆き、しみじみ語ります。夜も更け、女は祐慶たちの寒さをしのぐために薪を取りに行くことと告げ、留守中に決して自分の寢室を覗かないようにと念押しして出ていきます。ところが祐慶の従者のひとり是我慢できず、祐慶に戒められながらも、どうとう女の部屋を覗いてしまいます。すると、そこにはおびただしい数の死骸が山のように積まれているではありませんか。女は、安達原の黒塚に住むと噂という鬼だったのです…。

#### 【見どころ】

この能は、「道成寺」「葵上」とともに三鬼女と呼ばれています。後半に着用する般若の面は、女の恨みや執心を具象化していますが、恐ろしいながらも、ただのおどろおどろしい妖怪変化ではなく、どこか人間の悲哀を残した深みのある表情が印象的です。皆様是非この般若の表情にもご注目ください。

また前半で人生の真理に到達したかのような女の、哲学的とさえいえるような語りには深い詩情を伴い、秋の物寂しい風情をも醸します。ところが、約束を破られ、決して見られなかった闇(ねや)を見られたことから、女が激しい憤りの鬼と化してしまう。そのすさまじい変化が、寂しい陸奥の山麓という土地の雰囲気と結びついて、恐ろしさを増すのです。陰影の深さをじっくりと味わえる能といえるでしょう。



山本章弘(やまもと・あきひろ)

昭和35年11月生まれ。幼少より父、故山本真義に師事し、昭和58年、故25世宗家親世左近入門。

昭和63年独立。現在26世宗家親世清河寿に師事。3歳にて初舞台。

主な楽曲は「石橋」「狸々乱」「道成寺」「望月」「翁」「安宅」「砧」など。

海外公演は、米・ワシントン、インド、オーストラリア、イタリア、フランス等に参加。公益社団法人能楽協会理事。重要無形文化財保持者総合指定。日本能楽会々員。関西大学文学部卒業。関西大学及び大阪樟蔭女子大学能楽部講師。観世流発祥の地・奈良県結崎にある川西小学校の総合学習の能楽講師をつとめるほか、「アートによる能案内」「能とあそぼう」など、子ども達へ能楽の普及に努める。公益財団法人山本能楽堂代表理事として、「とくい能」「上方伝統芸能ナイト」などの新事業を立ち上げ、あらゆる世代に向け新たな能の魅力を伝えるべく、積極的に普及活動を行っている。「大阪文化祭奨励賞」「なにわ大賞大阪21世紀協会賞」などを受賞。

●山本能楽堂公式ホームページ  
<http://www.noh-theater.com/>

いばらき能

NOH@IBARAKI

平成29年3月12日(日) 午後2時開演(午後1時30分開場/午後4時25分終演予定)

茨木市市民総合センター クリエイトセンター・センターホール 茨木市駅前四丁目6番16号 ☎072-624-1726

【全席指定】一般3,000円/65歳以上、障害者及びその介助者2,500円/青少年[24歳以下]1,000円 \*就学前のお子様はご遠慮ください

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き(この取り扱いは財団のみです)

12月8日(木)午前9時予約開始

財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。残席がある場合は翌日から窓口販売いたします。

#### ◆チケットのお申込み・お問合せ

茨木市文化振興財団・文化事業係 ☎072-625-3055(午前9時～午後5時)/インターネットチケット [www.ibabun.jp](http://www.ibabun.jp)

財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。予約後は1週間以内に下記のチケットカウンターでご精算ください。チケットの引取り・窓口販売は発売翌日からです。

◎クリエイトセンター1階チケットカウンター(午前9時～午後5時) ◎福祉文化会館3階チケットカウンター(午前9時～午後5時)

\*インターネット予約については、コンビニ(セブンイレブン、サークルK、サンクス)でご精算・受取いただけます。(手数料108円)

\*予約チケットの郵送をご希望の場合は、〈チケット料金+郵送手数料400円〉を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払ください。払込手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。(払込口座) 00970-7-190576/加入者名:茨木市文化振興財団

#### ◆その他プレイガイド(12月8日店頭販売あり 午前10時～)

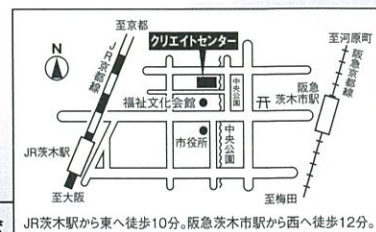
ローソンチケット 0570-000-407(オペレーター対応)・Lコード予約 0570-084-005(Lコード54272) <http://l-tike.com/>

\*ローソンチケットの取り扱いチケットはローソン、ミニストップ各店舗で直接購入できます。

チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード454-988) <http://pia.jp/>

\*チケットぴあの取り扱いチケットはセブンイレブン、サークルK、サンクス各店舗で直接購入できます。

◆主催:(公財)茨木市文化振興財団 ◆制作:(公財)山本能楽堂/三栄企画 ◆後援:茨木商工会議所/茨木市観光協会



関西から  
文化力  
POWER OF  
CULTURE